

「The 本質」講座

深く・広く・正しく考える

【広く考える・良さと正しさ】コース

出る杭の杜

世の中は、本質とは何かが分かっていない

本質とは何か？

古代ギリシャ時代からの謎

誰もが
本質は極めて重要なもの
と感じている

しかし
本質が何かを
学校でも会社でも
教えていない

【略歴】

- 「出る杭」歓迎であった成長期のソニーで、ひととき「出る杭」ぶりを発揮、英国ソニー赴任期間中には、多国籍有志連合を結成して自らの企画を勝手に推進、世界に先駆けて、ソニーでも初のSCM革新を成功させた。
- ソニー後は、大手グローバル・コンサルティングファームの内、PwCでシニアディレクター(戦略)、IBMでアソシエイトパートナー(SCM)、キャップジェミニE&Yで最上級パートナー職であるヴァイスプレジデント(戦略、SCM)に就任。
NHKの特番となった大成功SCMプロジェクトの実績も持つ。
- 2004年に独立、出る杭の杜代表。
- 2014年より、ライフワークとして本質系イノベーション研修(通称:出る杭研修)を実施。
- 2021年より、日本科学哲学会会員

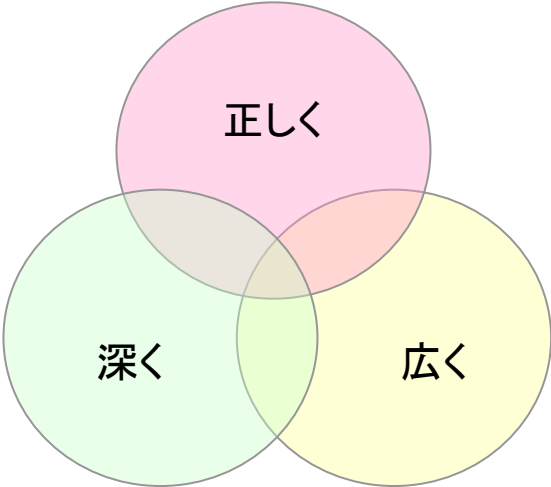
【執筆】

<書籍>

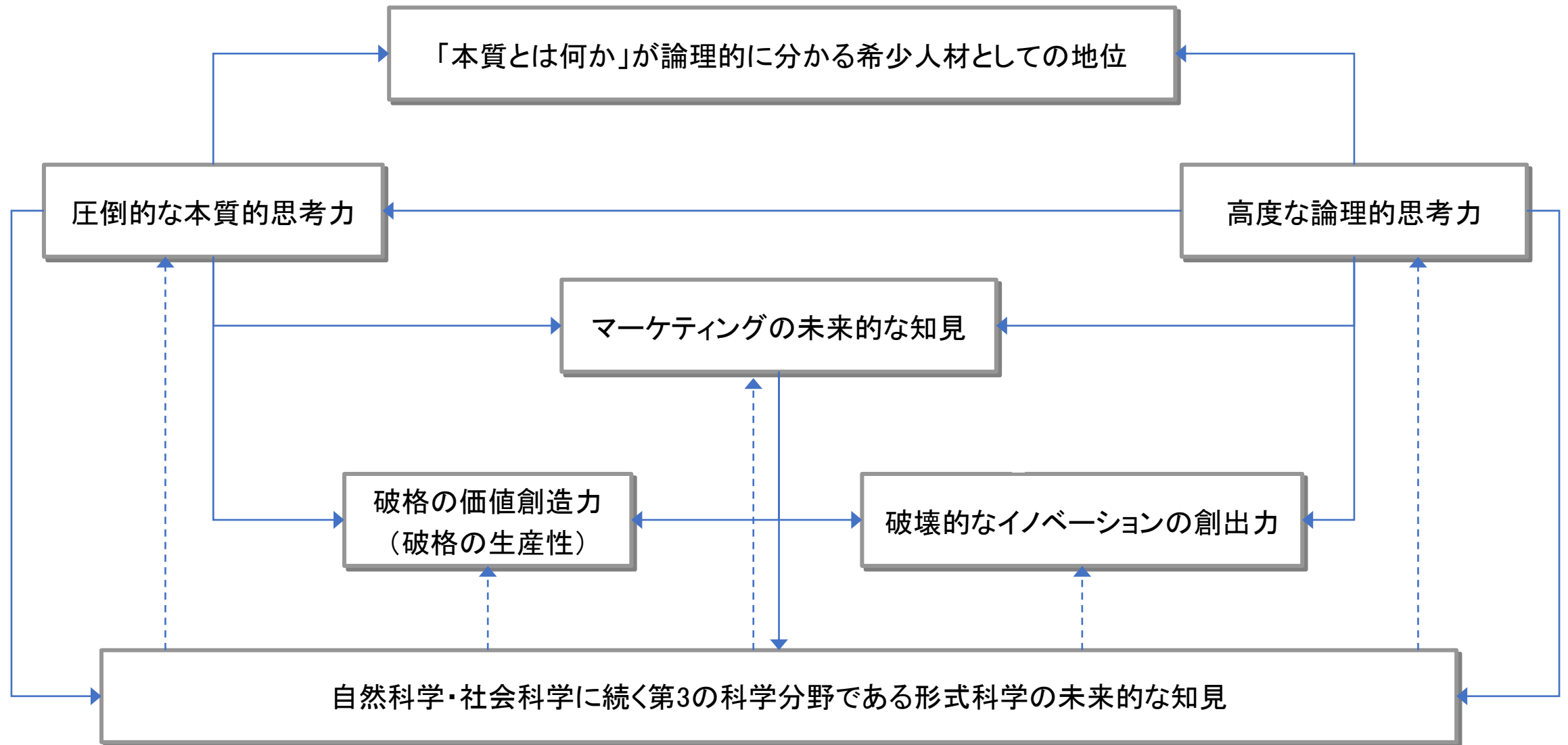
- 「ソニーをダメにした『普通』という病」(2008年) Amazon Kindleで総合1位、10万部のベストセラー
- 「イノベーター出る杭の本質思考 —GAFAを超える発想法—」(2019年) Amazon「経営科学」1位

<コラム>

- 日経ものづくり 「『出る杭』を育てる時代」(2015年2月号～6月号)
- 日経ものづくり 「『出る杭』が拓く顧客視点のものづくり」を連載(2016年2月号～6月号)
- 日経×TECH 「出る杭コンサルの眼」を連載(2015年5月日～2016年5月)
- ダイヤモンドオンライン 「御社の『商品価値』はなぜちっともお客に響かないのか？」(2017年3月)
- 日経×TECH 「aibo登場！ソニーは『普通』という病を克服したか？」を連載(2018年1月)
- 日経×TECH 「出る杭コンサルの眼 II」を連載(2018年4月～2018年9月)

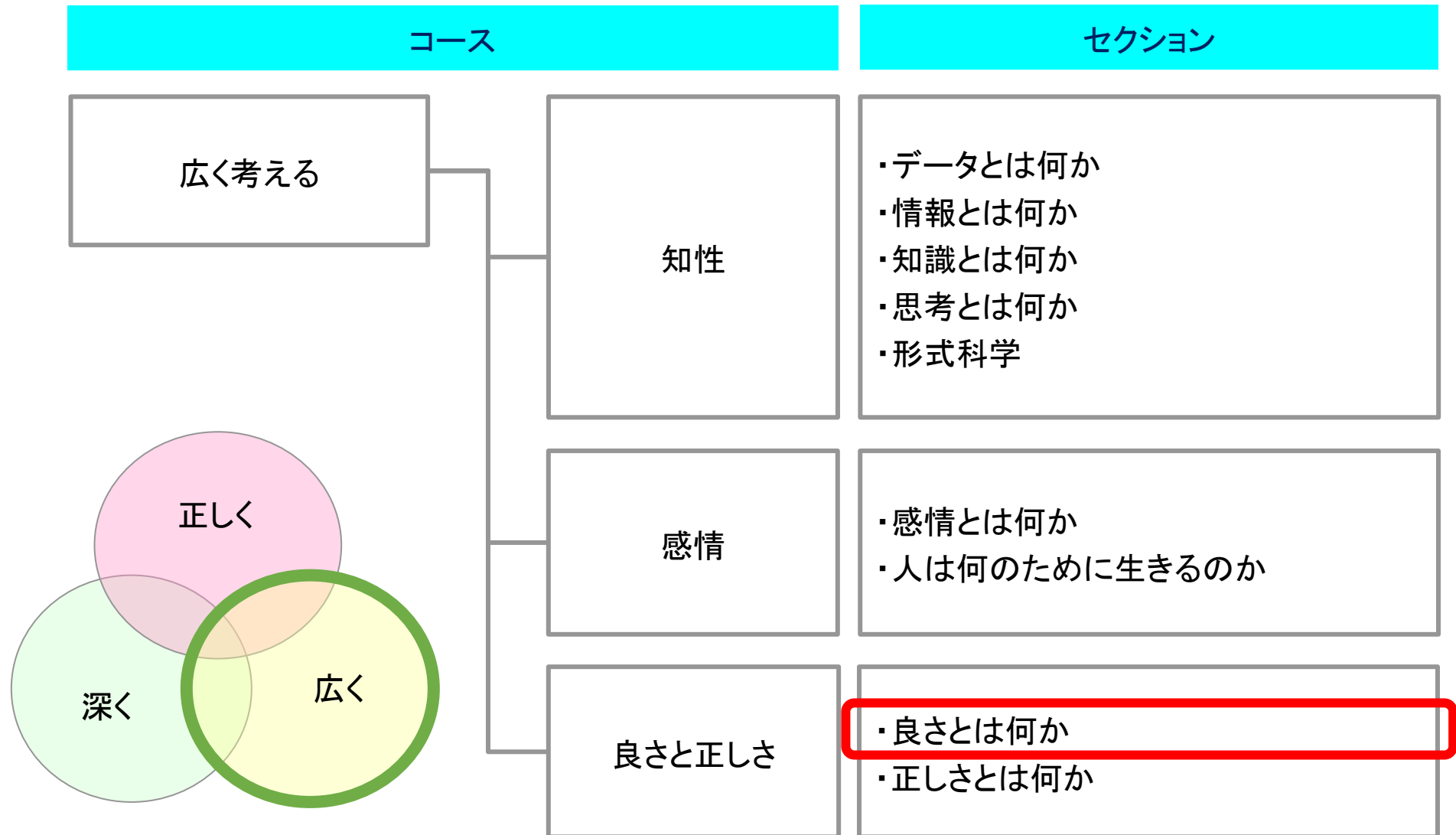


コース		セクション
深く考える	本質	・本質とは何か ・本質とは何か分かることの意義
	価値と商品	・価値はどこにあるか ・価値とは何か ・商品価値とは何か ・商品とは何か
	ビジネスと企業	・ビジネスとは何か ・ビジネスパーソンとは何か ・企業とは何か
広く考える	知性	・データとは何か ・情報とは何か ・知識とは何か ・思考とは何か ・形式科学
	感情	・感情とは何か ・人は何のために生きるのか
正しく考える	良さと正しさ	・良さとは何か ・正しさとは何か
	論理的思考	・論理とは何か ・論理的思考とは何か
	顧客と市場	・顧客とは誰か ・市場とは何か
	社会と経済	・社会とは何か ・経済とは何か ・部分最適と全体最適
	夢	・究極の商品戦略 ・夢の稼ぐ力



広く考える

良さと正しさ



辞書に載っている「良さ」の意味



「よいこと」は
良さの定義ではなく
言い換えですらない

「よい状態」も
良さの定義ではなく
言い換えですらない

よいこと。よい状態。また、その度合い。

デジタル大辞泉

「良さ」は
「度合い」という属性を持つが
「度合い」ではない

「良さそのもの」
を見極めよう！

Let's

Think !

【良さとは何か】

ヒント： 良さは、頭の中にある

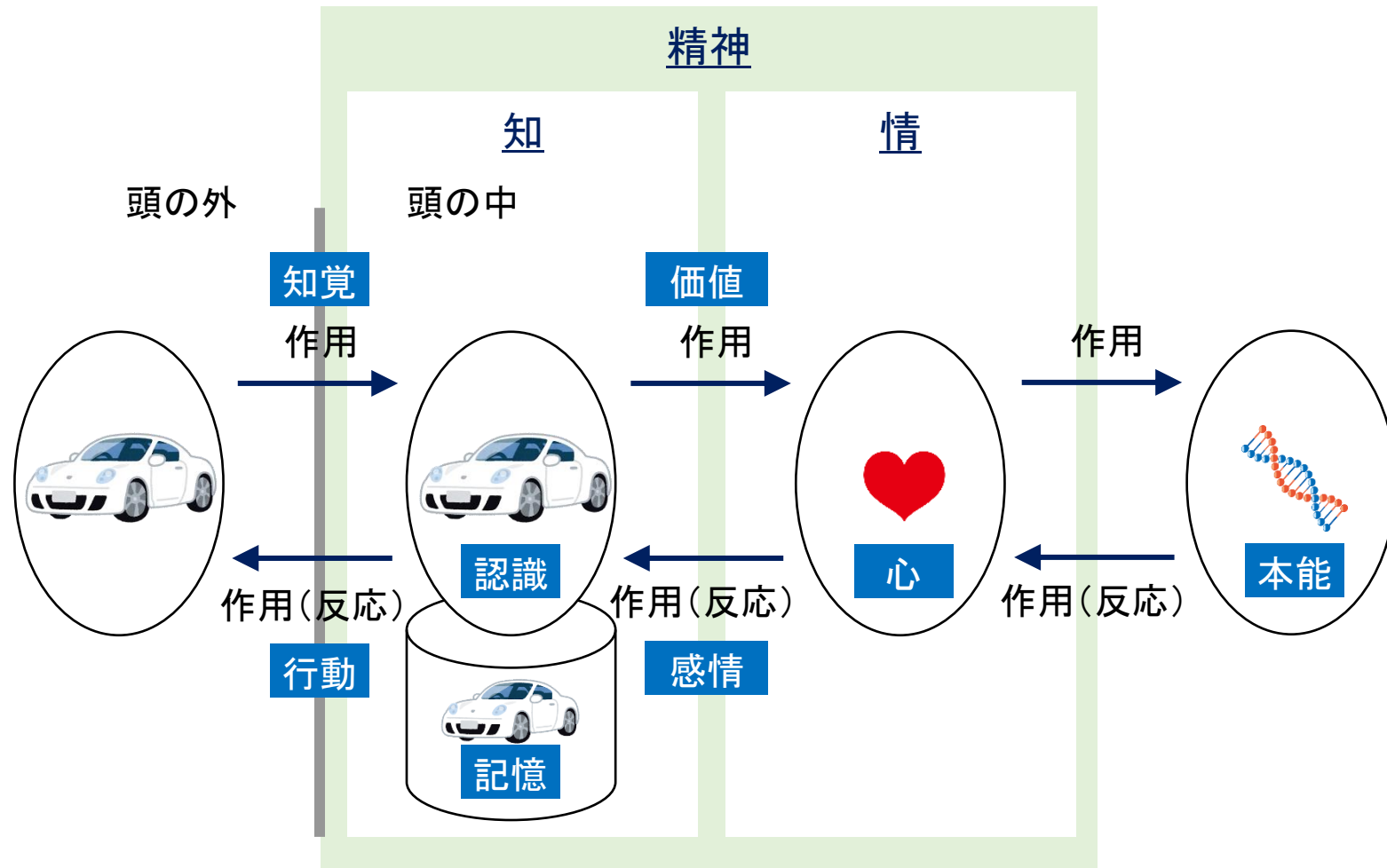


昔の愛車(廃車済み)



【良さとは何か】

ヒント： 良さを、頭の中にある精神のメカニズムに当てはめてみる



良さは、頭の中にある

良さを頭の中にある精神のメカニズムに当てはめてみる

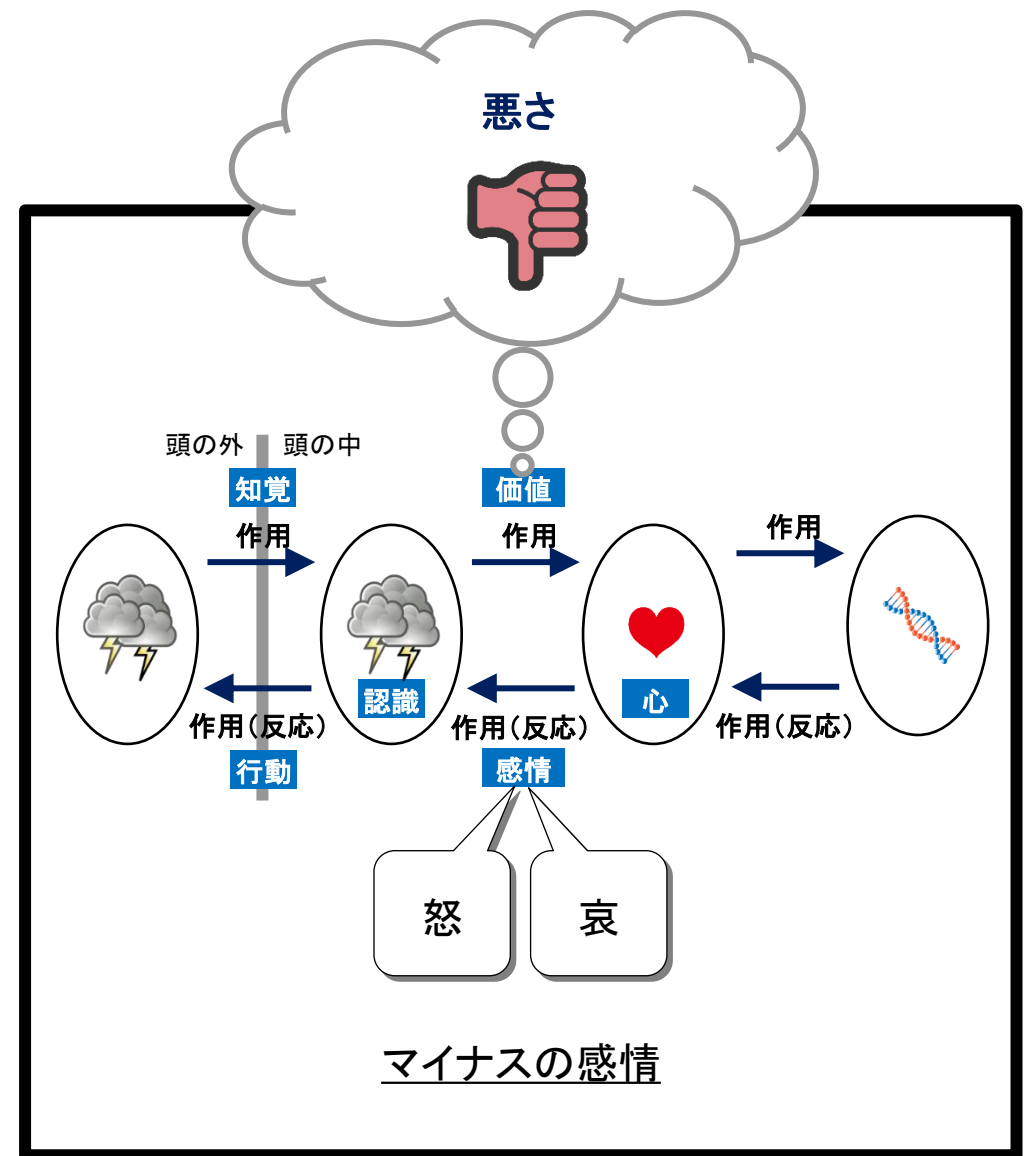
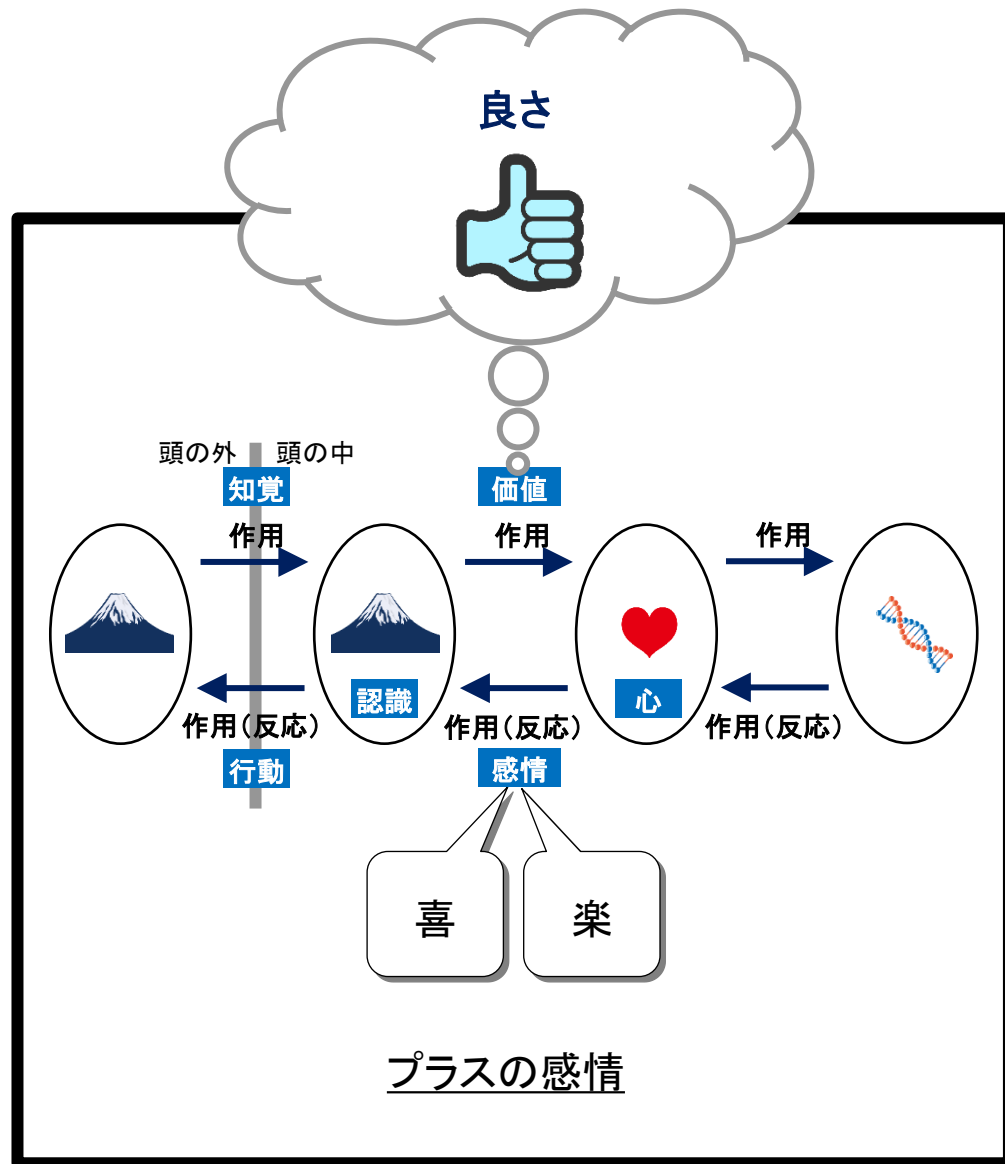
良さは、プラスの感情を引き起こす価値であると言えそうである

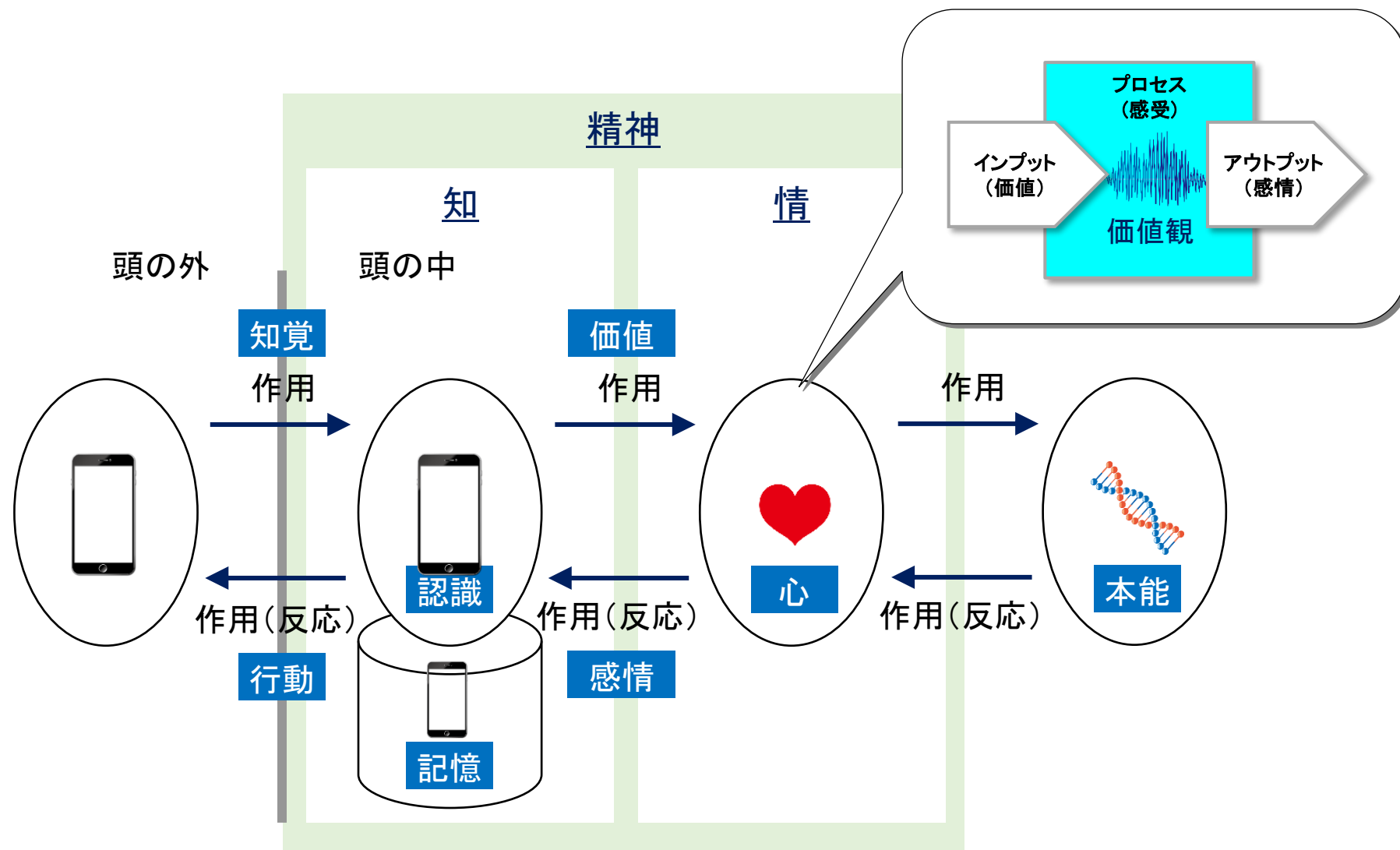
良さの本質は、プラスの価値の本質と同じであると言える
※ プラスの価値の本質は「プラスの感情を引き起こす認識の作用」

良さとは、(プラスの)価値である

【良さとは何か】

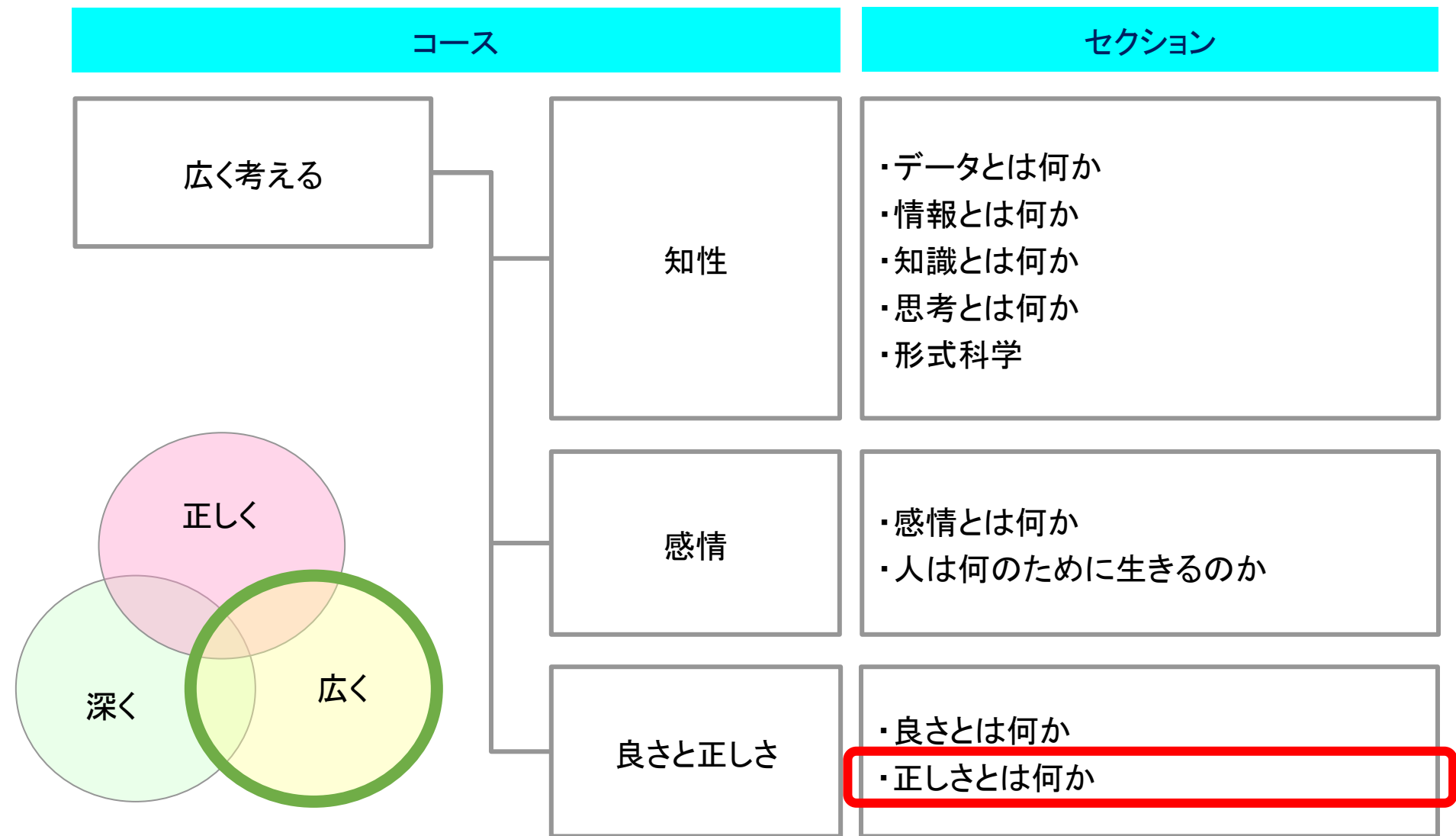
補足： 悪さは、マイナスの価値である





補足: ビジネスは、良い行い、すなわち善行である





辞書に載っている「正しい」の意味

「形が曲がったりゆがんだりしていない」と
「血筋などの乱れがない」は
3番の「規準に対して乱れたところがない」の一種

「など」は
言葉の定義に不適切

「道理にかなっている」は
3番の「規準に対して乱れたところがない」の一種



デジタル大辞泉

1. 形や向きがまっすぐである。
ア 形が曲がったりゆがんだりしていない。
イ 血筋などの乱れがない。
2. 道理にかなっている。事実に合っている。正確である。
3. 道徳・法律・作法などにかなっている。規範や規準に対して乱れたところがない。

これだと「事実は正しい」が
「事実は『事実に合っている』」
になってしまう

「正確である」は
「正しい」の一種でしかない

「道徳・法律・作法などにかなっている」は
その後の「規準に対して乱れたところがない。」の一種

「規範や基準」は限定的
(事実が表す現実の事物は規範でも基準でもない)

「乱れ」は
曖昧な表現

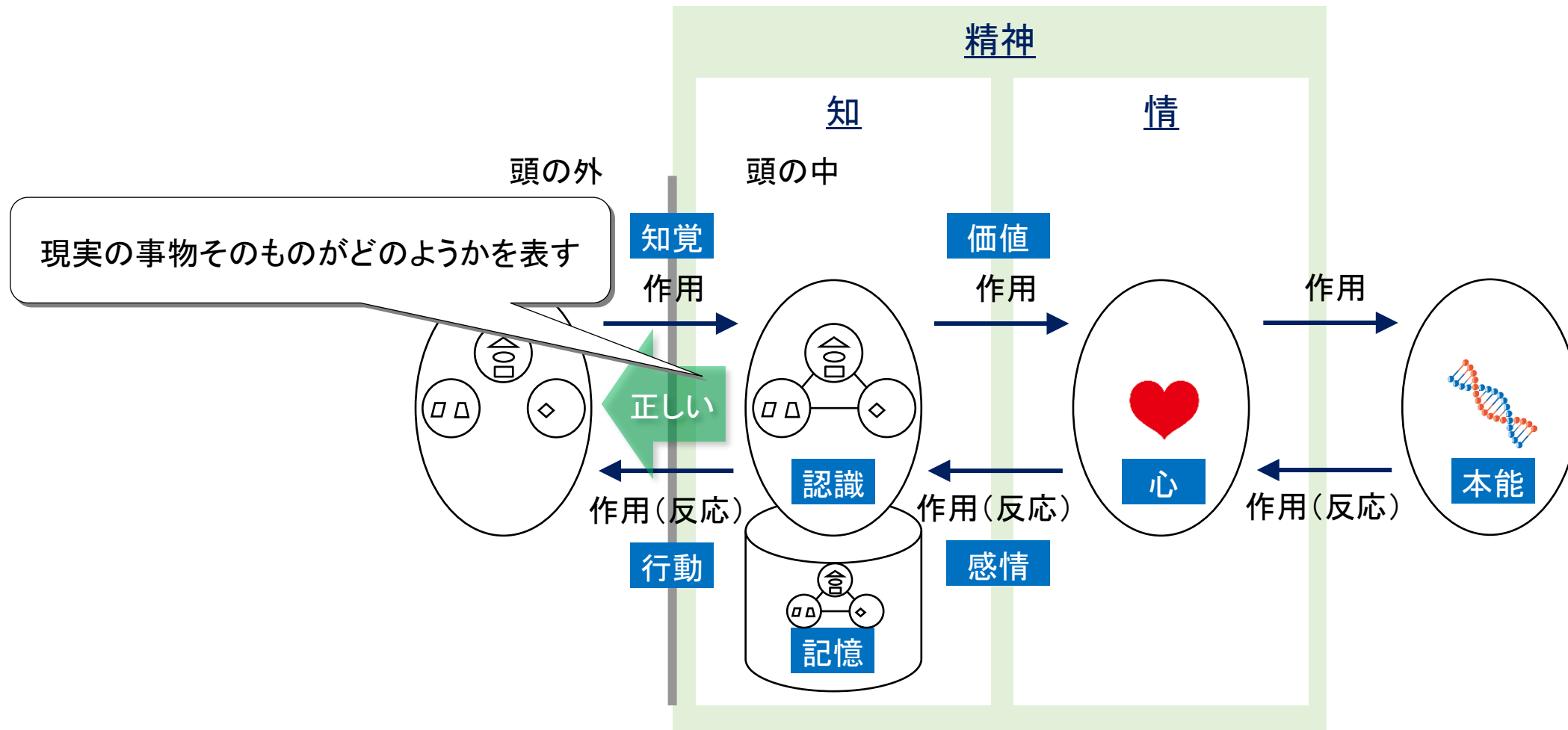
「正しさそのもの」
を見極めよう！

Let's

Think !

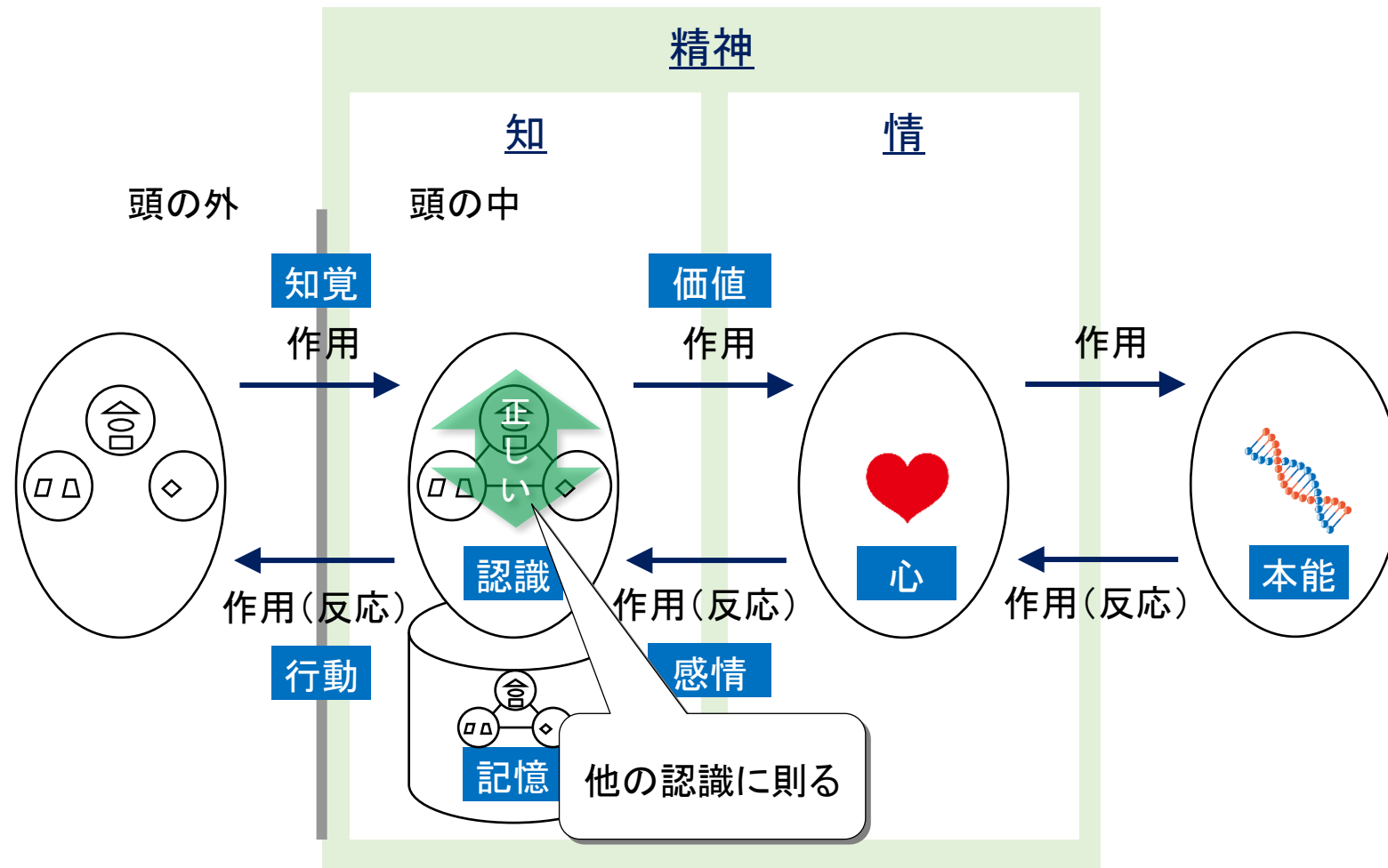
【正しさとは何か】

ヒント： 正しさには、認識が持つ、現実の事物そのものがどのようなかを表すという正しさがある



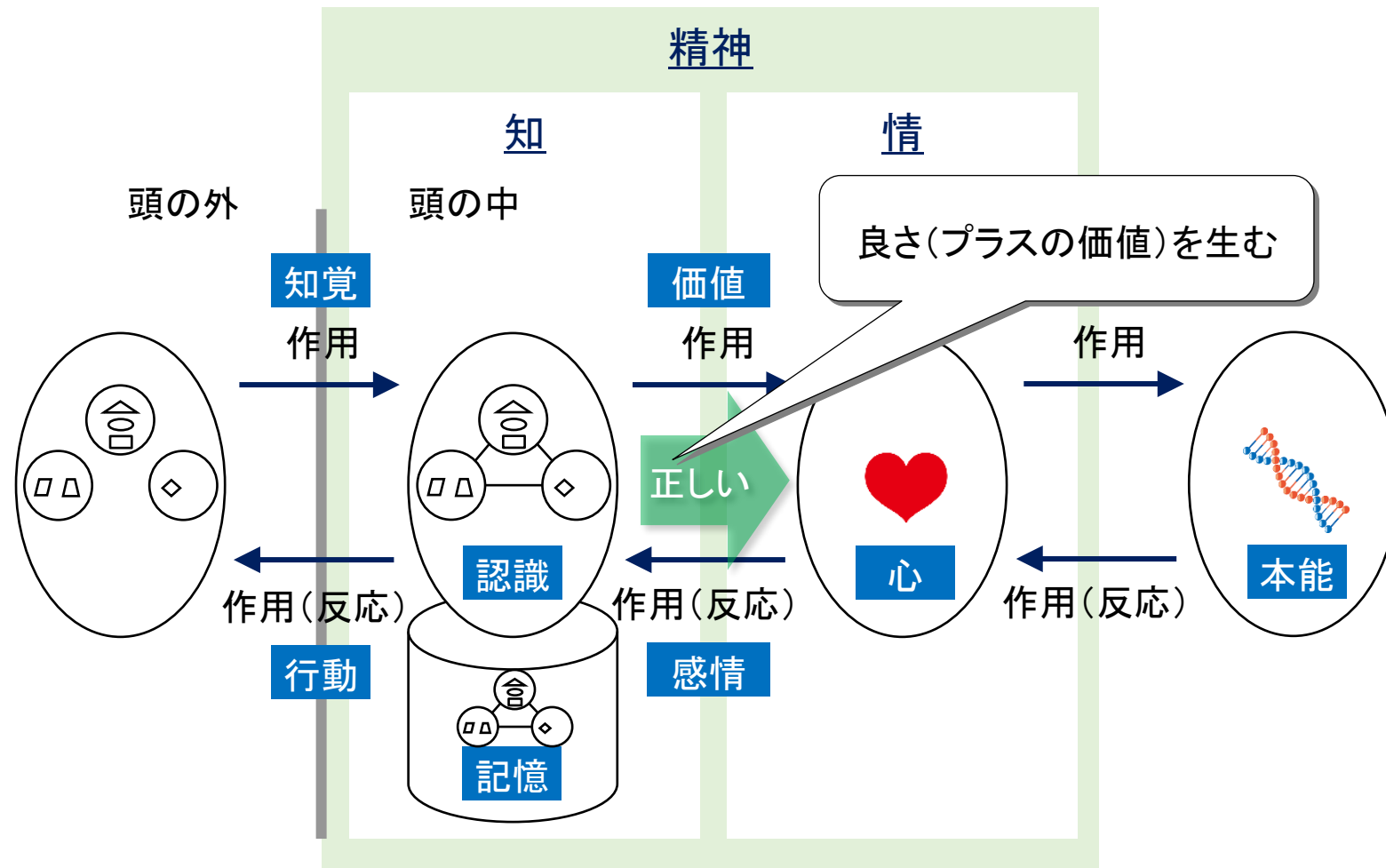
【正しさとは何か】

ヒント： 正しさには、認識が持つ、他の認識に則するという正しさがある



【正しさとは何か】

ヒント： 正しさには、認識が持つ、良さを生むという正しさがある



【正しさとは何か】

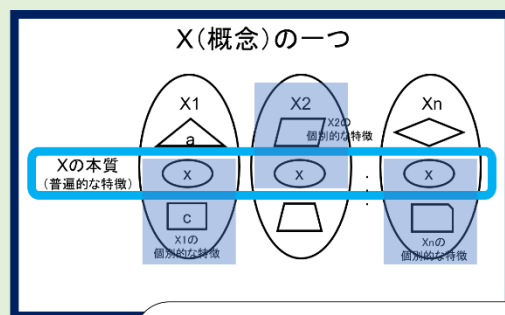
ヒント： 正しさには、認識の形式が持つ、事物(What)そのものを表すという正しさがある

事物(What)そのものを表す
<ノード>

すべての事物における
絶対的位置

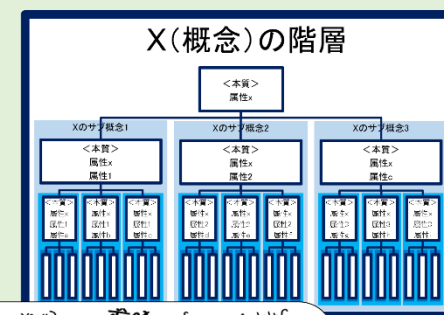
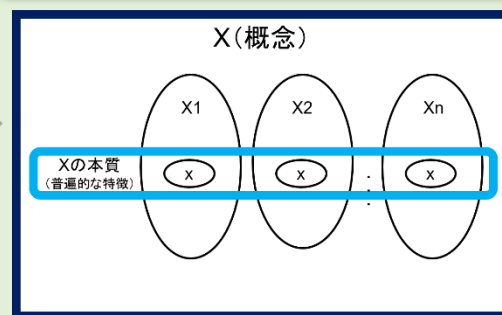
認識空間

絶対的位置 = 事物が何か(What)



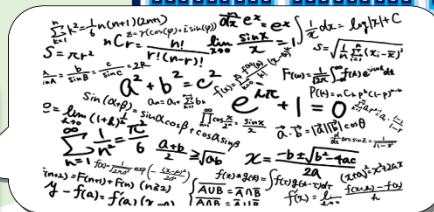
普遍化

個別化



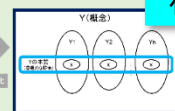
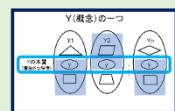
- ・第1文型: S + V
- ・第2文型: S + V + C
- ・第3文型: S + V + O
- ・第4文型: S + V + O + O
- ・第5文型: S + V + O + C

関係
事物がどのような(How)



相対的位置 = 組み合わせ方

相対的位置 = 組み合わせ方



相対的位置 = 組み合わせ方



絶対的位置 = 事物が何か(What)

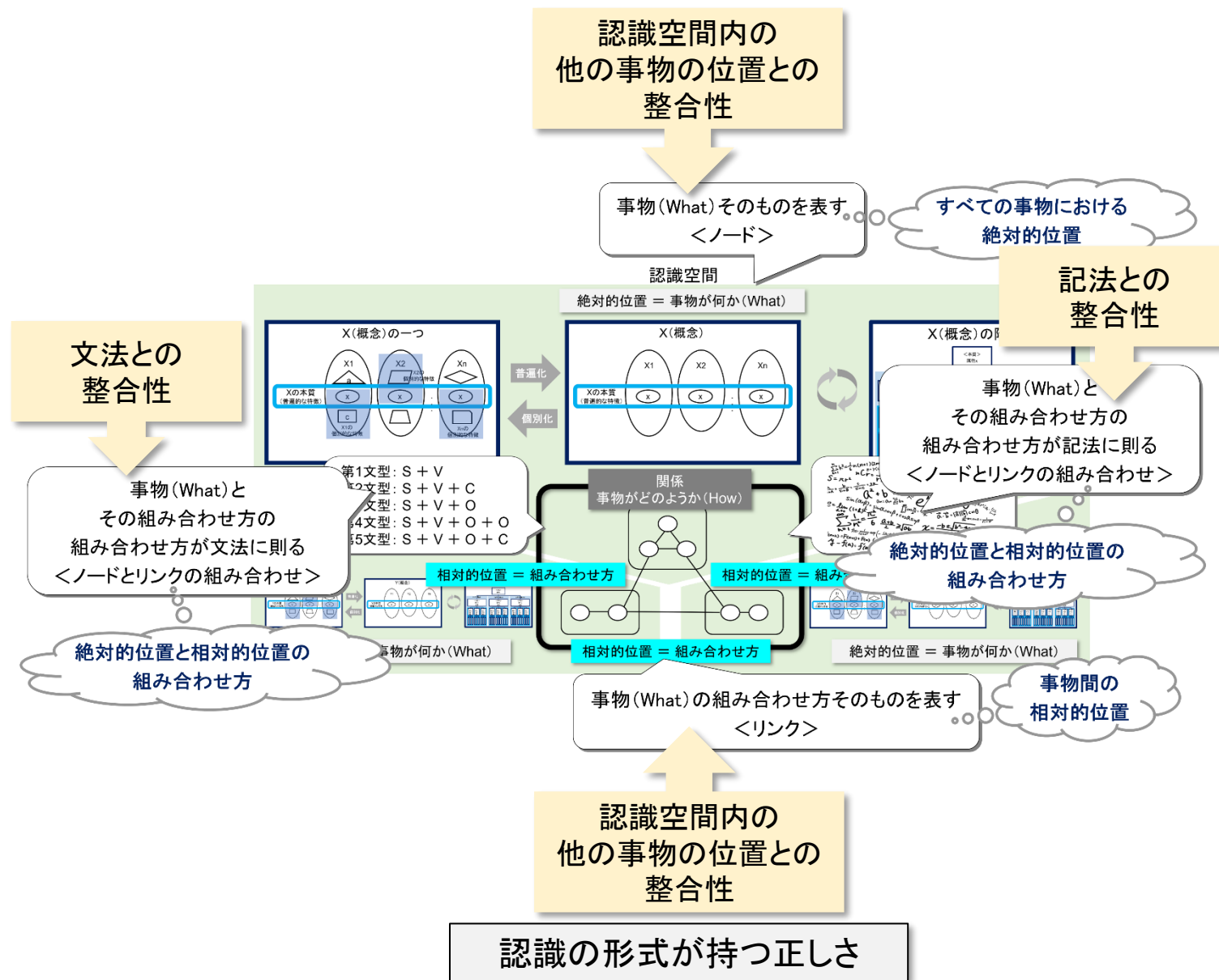
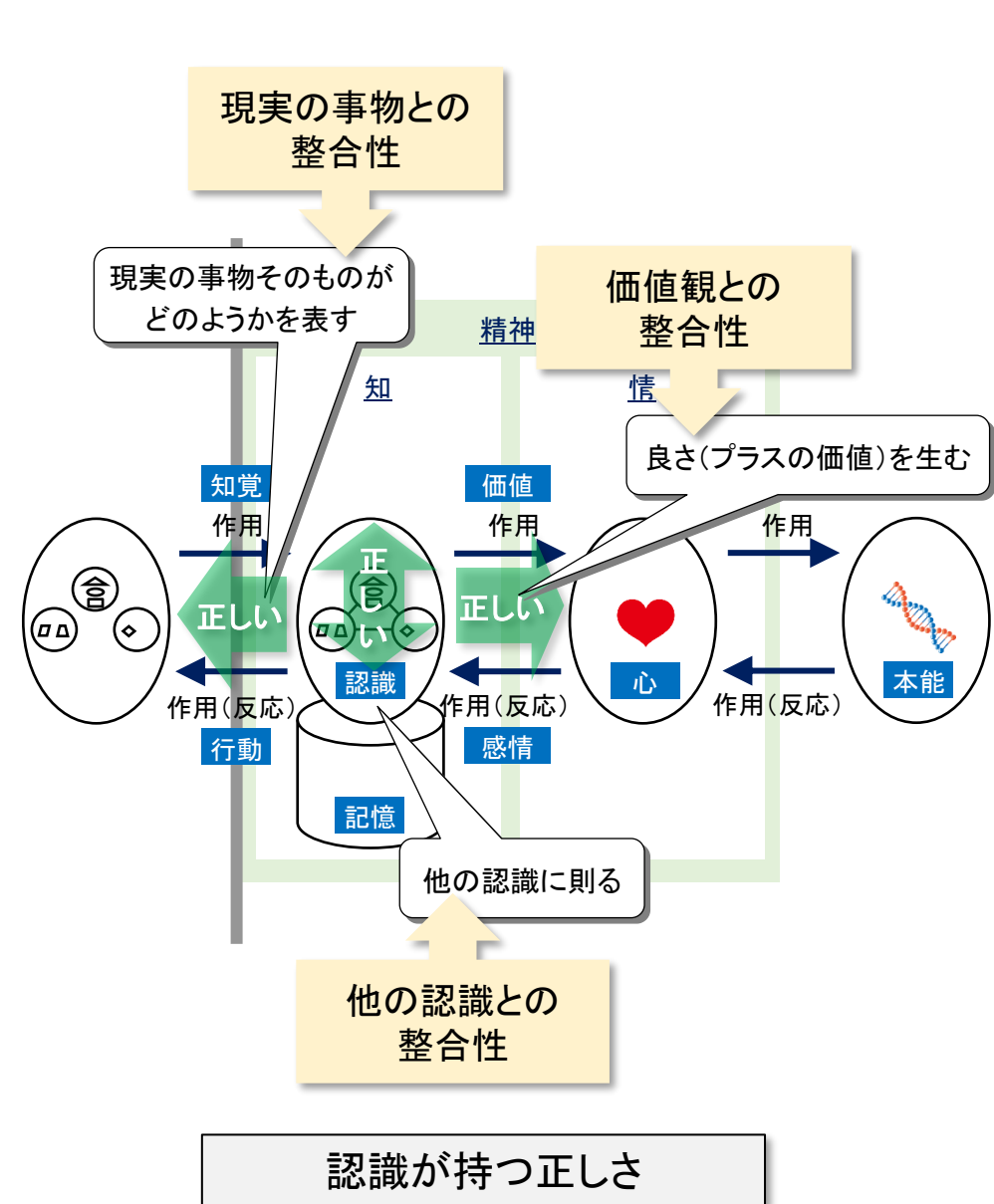
絶対的位置 = 事物が何か(What)

ヒント: 正しさには、認識の形式が持つ、事物(What)の組み合わせ方そのものを表すという正しさがある



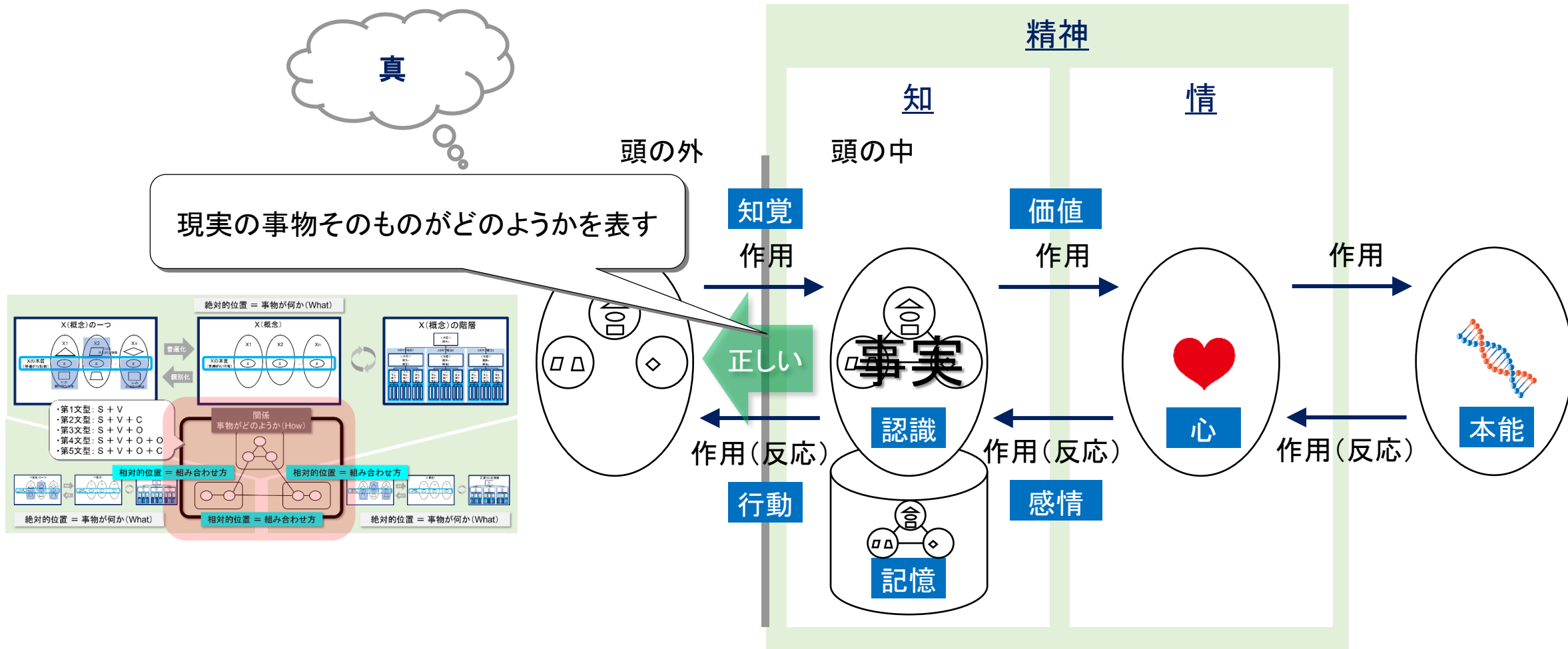
ヒント： 正しさには、認識の形式が持つ、事物(What)とその組み合わせ方の組み合わせ方が文法や記法に則するという正しさがある





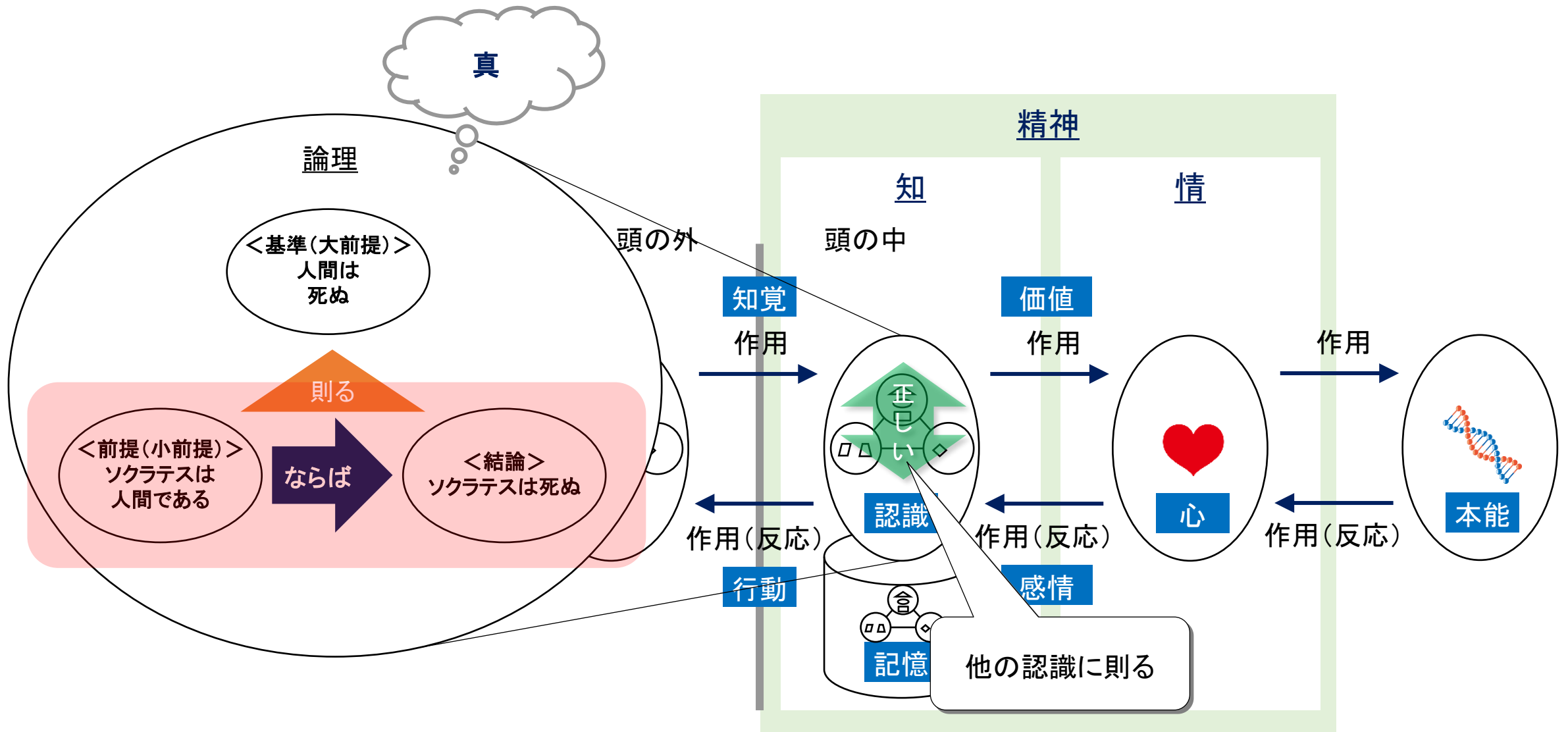
【正しさとは何か】

補足： 現実の事物そのもの(はどのような)を表す認識は、事実(法則性含む)である



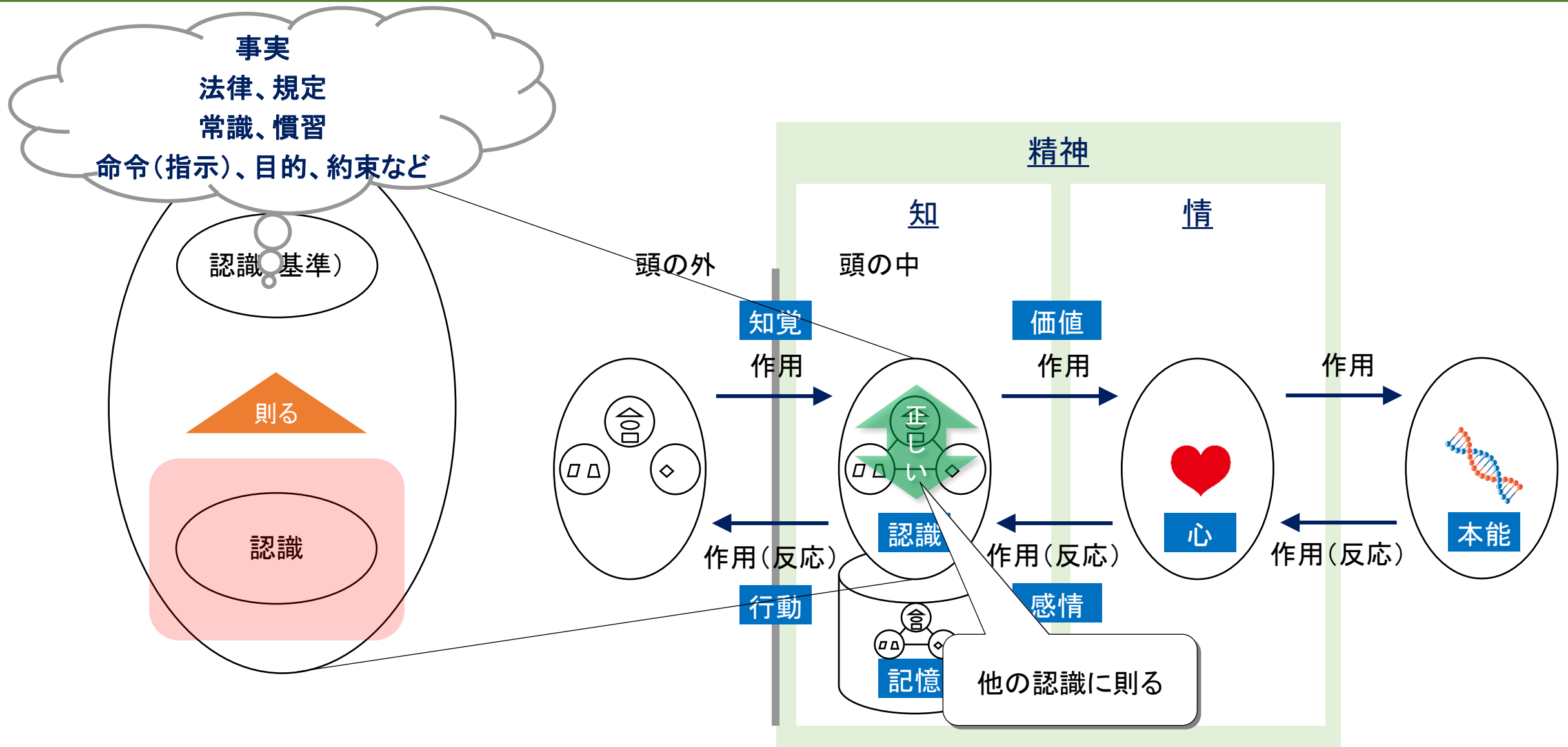
【正しさとは何か】

補足： 他の認識に則る認識には、基準に則る前提・結論がある



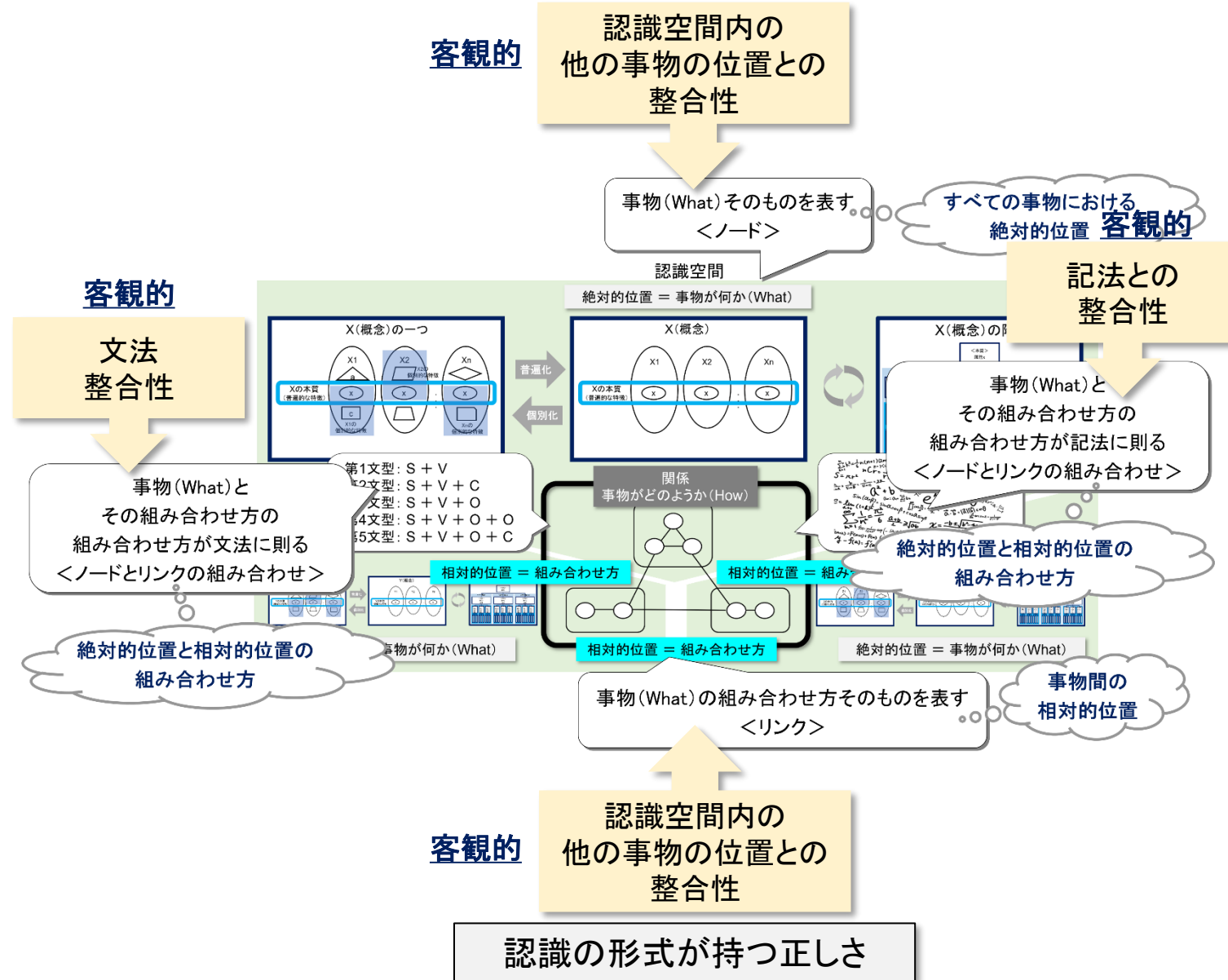
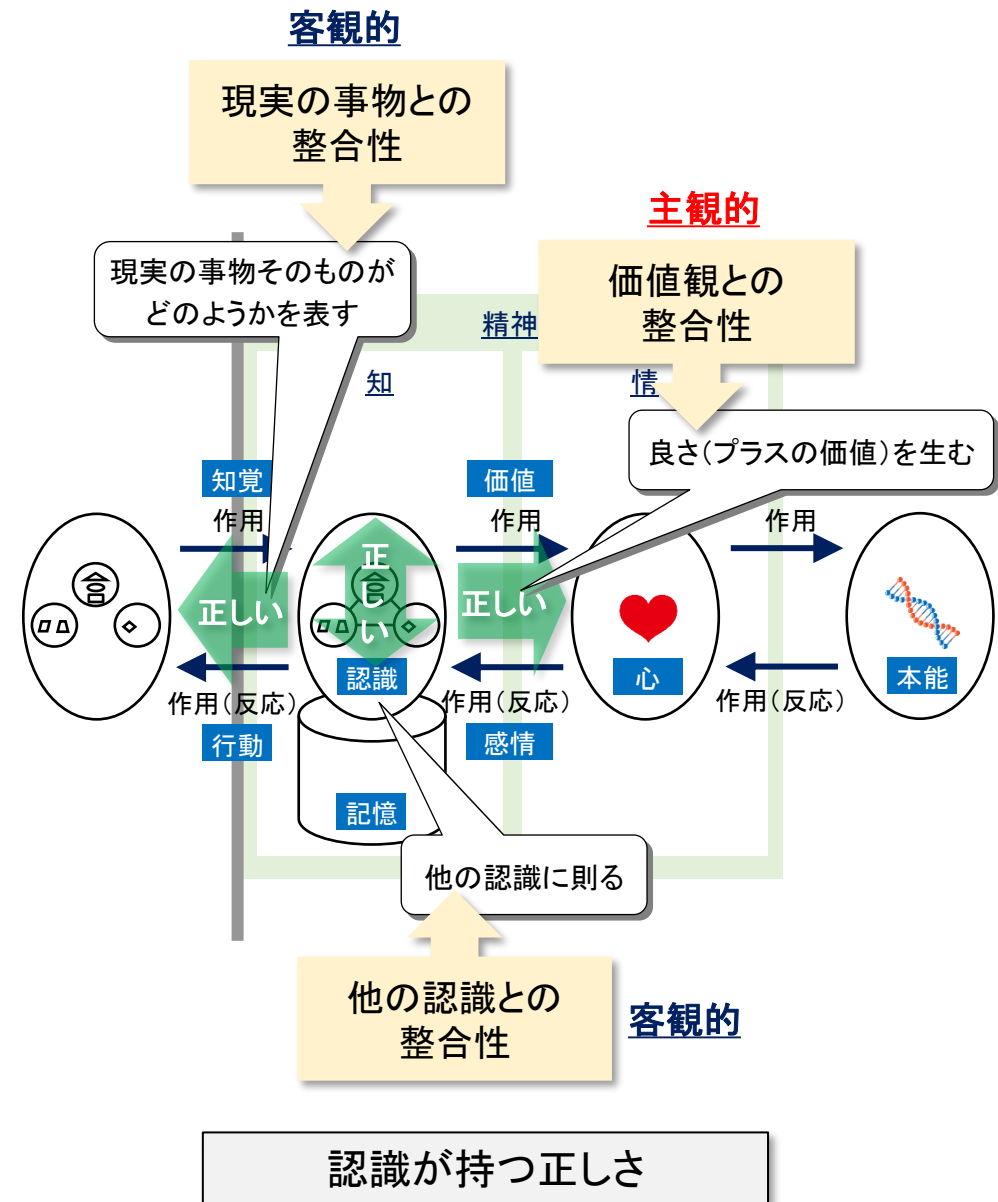
【正しさとは何か】

補足： 他の認識に則る認識には、基準に則る前提・結論以外にも様々ある



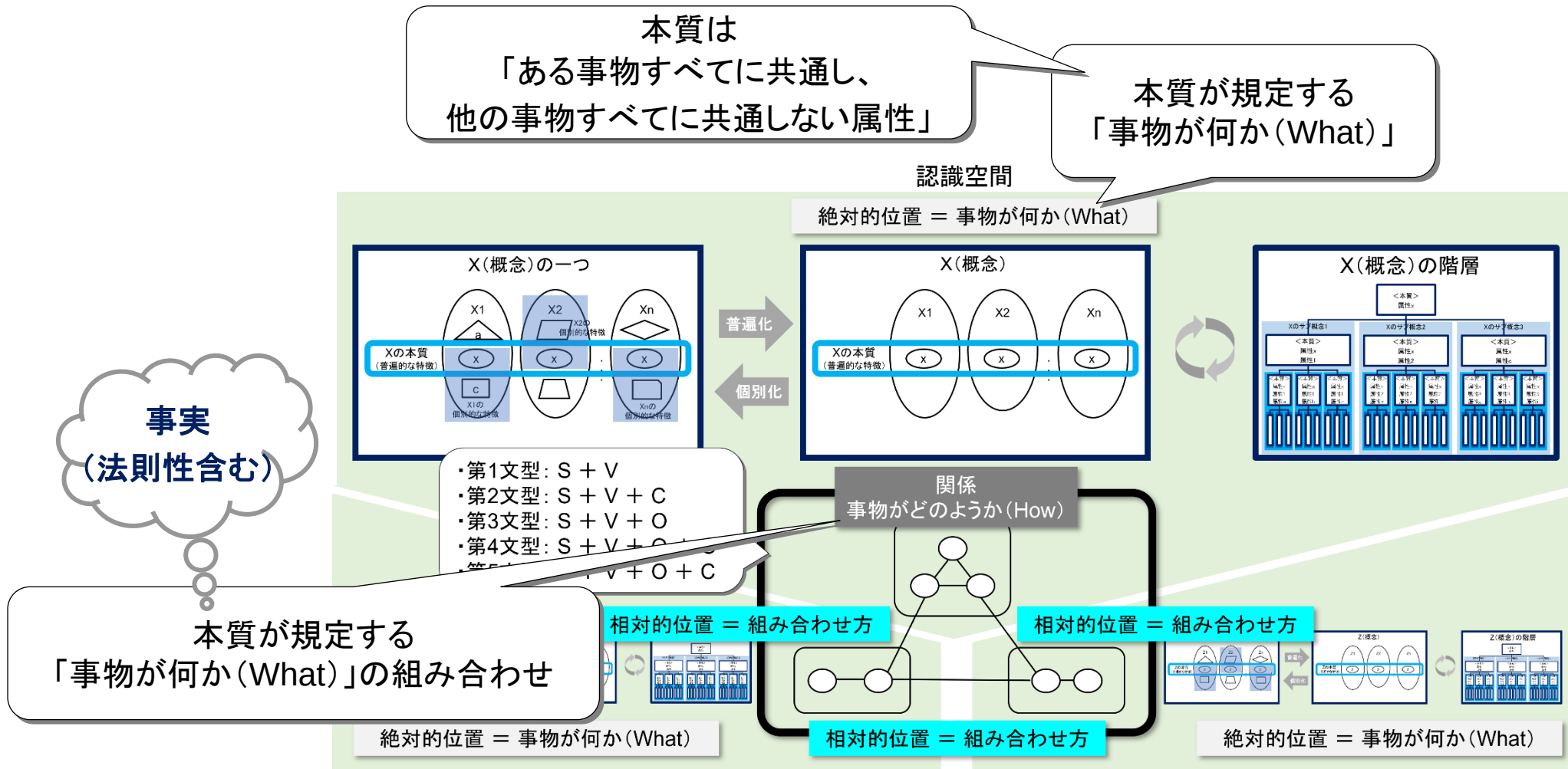
【正しさとは何か】

補足： 良さを生むという正しさは、主観的な正しさであり、最も重要な正しさである



【正しさとは何か】

補足： そもそも、本質と概念の正しさは不完全であり、よって事実の正しさも不完全である



【正しさとは何か】

補足： それでも、人類は、事実を追求しなければならない

良い
社会

法則の発見

人類の経験の範囲内での
事実の追求

現実への適切な対応

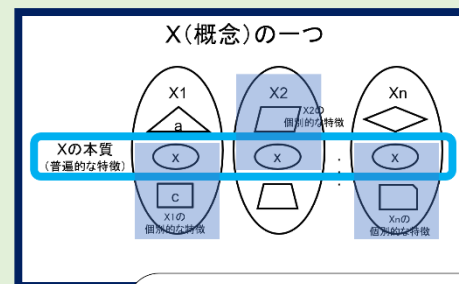
楽しい人生

本質を見極める

概念(ノード)を見極める

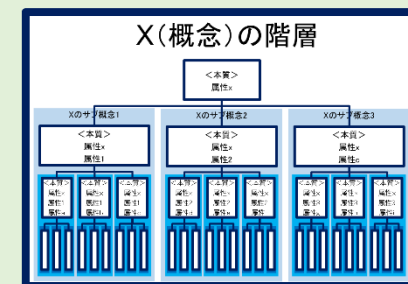
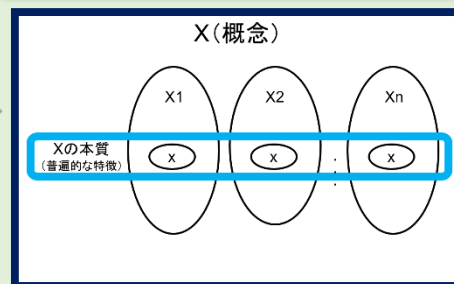
認識空間

絶対的位置 = 事物が何か(What)



普遍化

個別化



事実

(法則性含む)

- 第1文型: S + V
- 第2文型: S + V + C
- 第3文型: S + V + O
- 第4文型: S + V + O + O
- 第5文型: S + V + O + O

関係
事物がどのような(How)

正しい関係(リンク)を見極める

正しい関係(ノード+リンク)をつくる

相対的位置 = 組み合わせ方

相対的位置 = 組み合わせ方

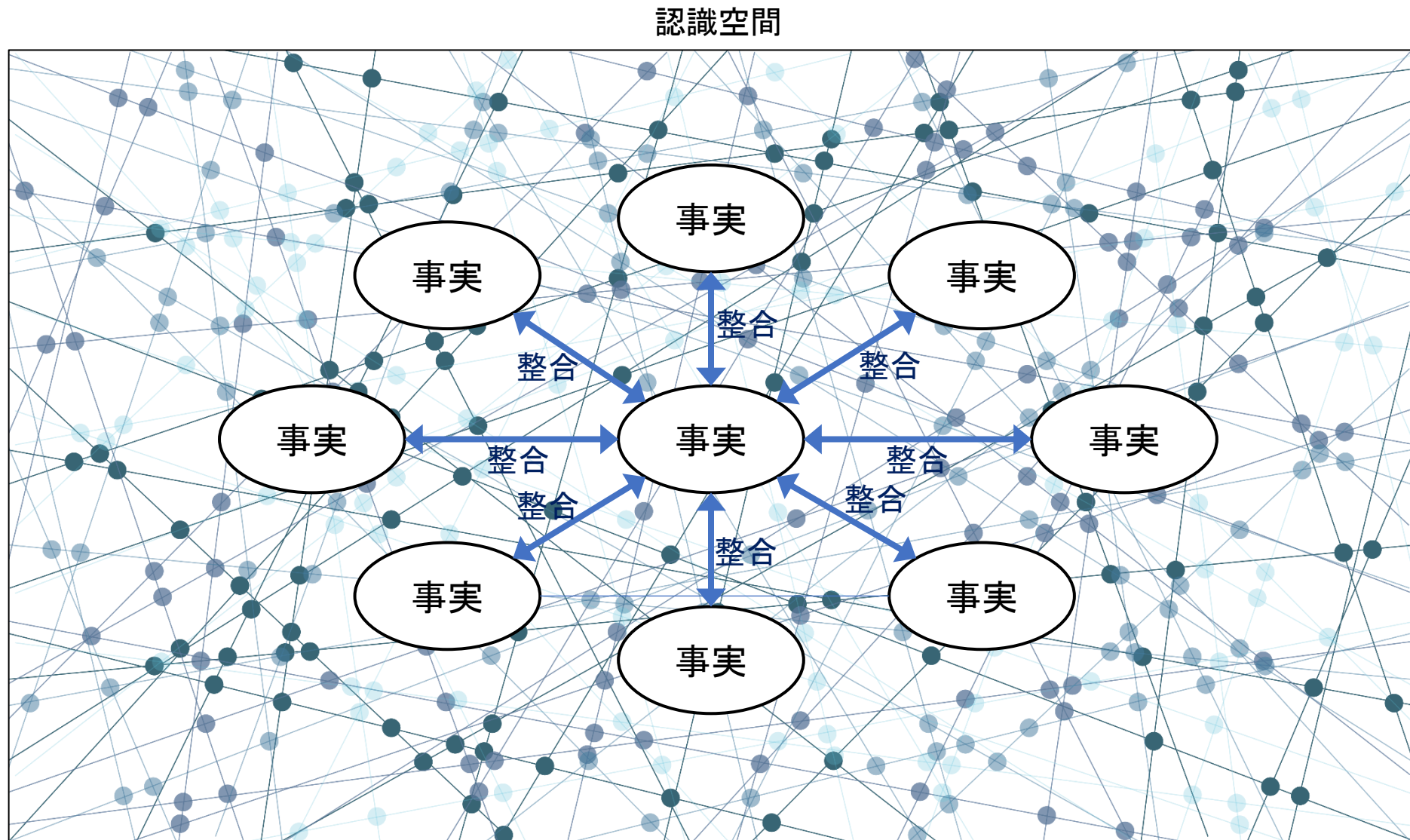
絶対的位置 = 事物が何か(What)

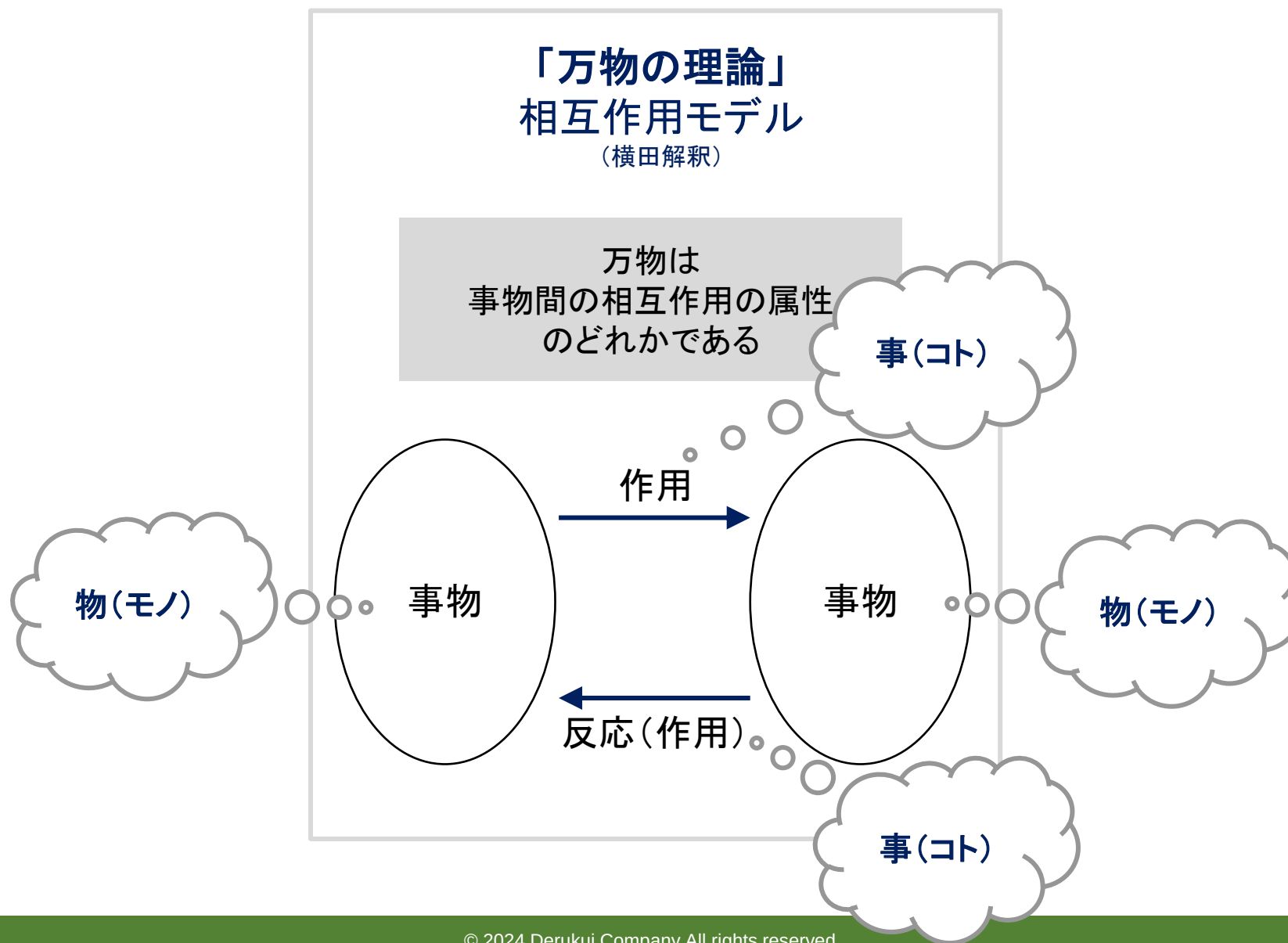
相対的位置 = 組み合わせ方

絶対的位置 = 事物が何か(What)

【正しさとは何か】

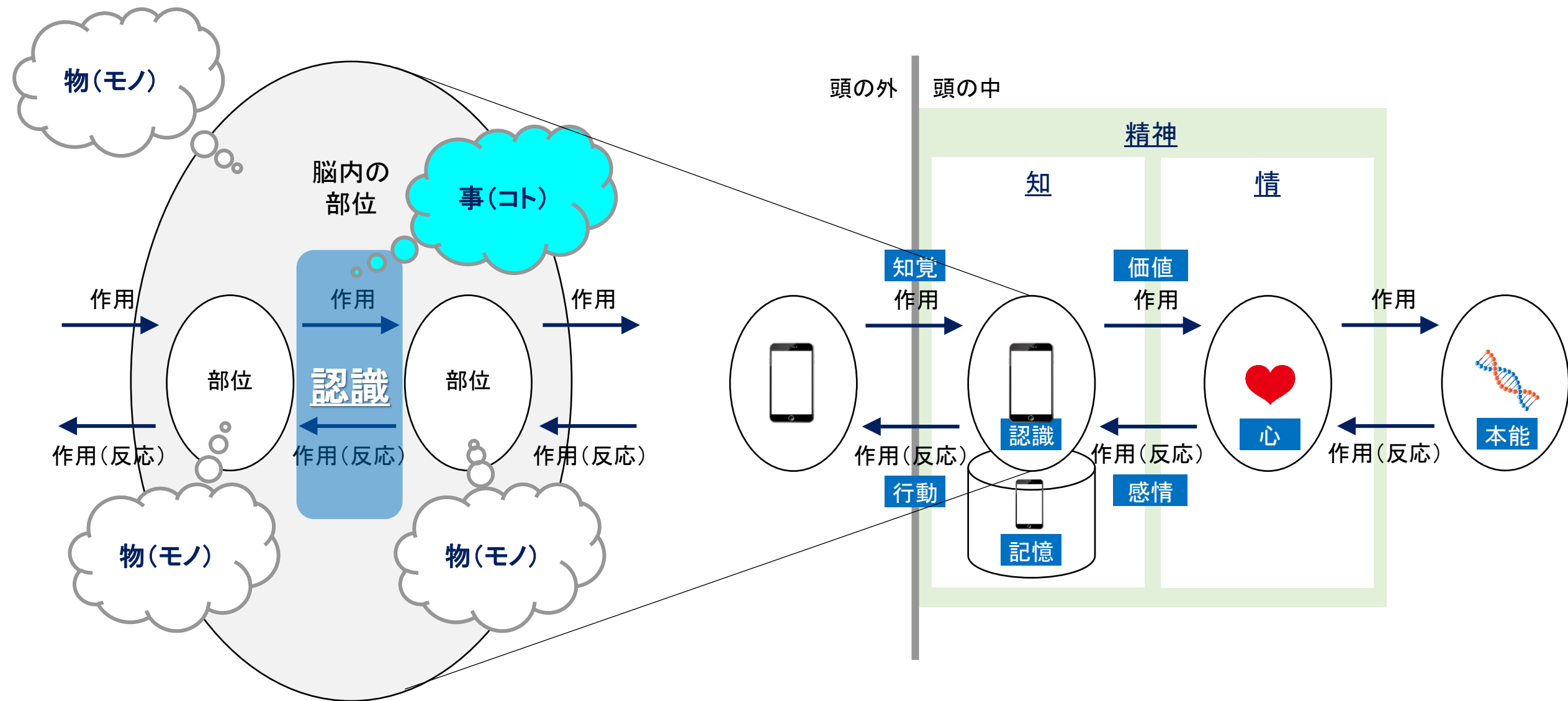
補足： 事実は、他のすべての事実と整合する



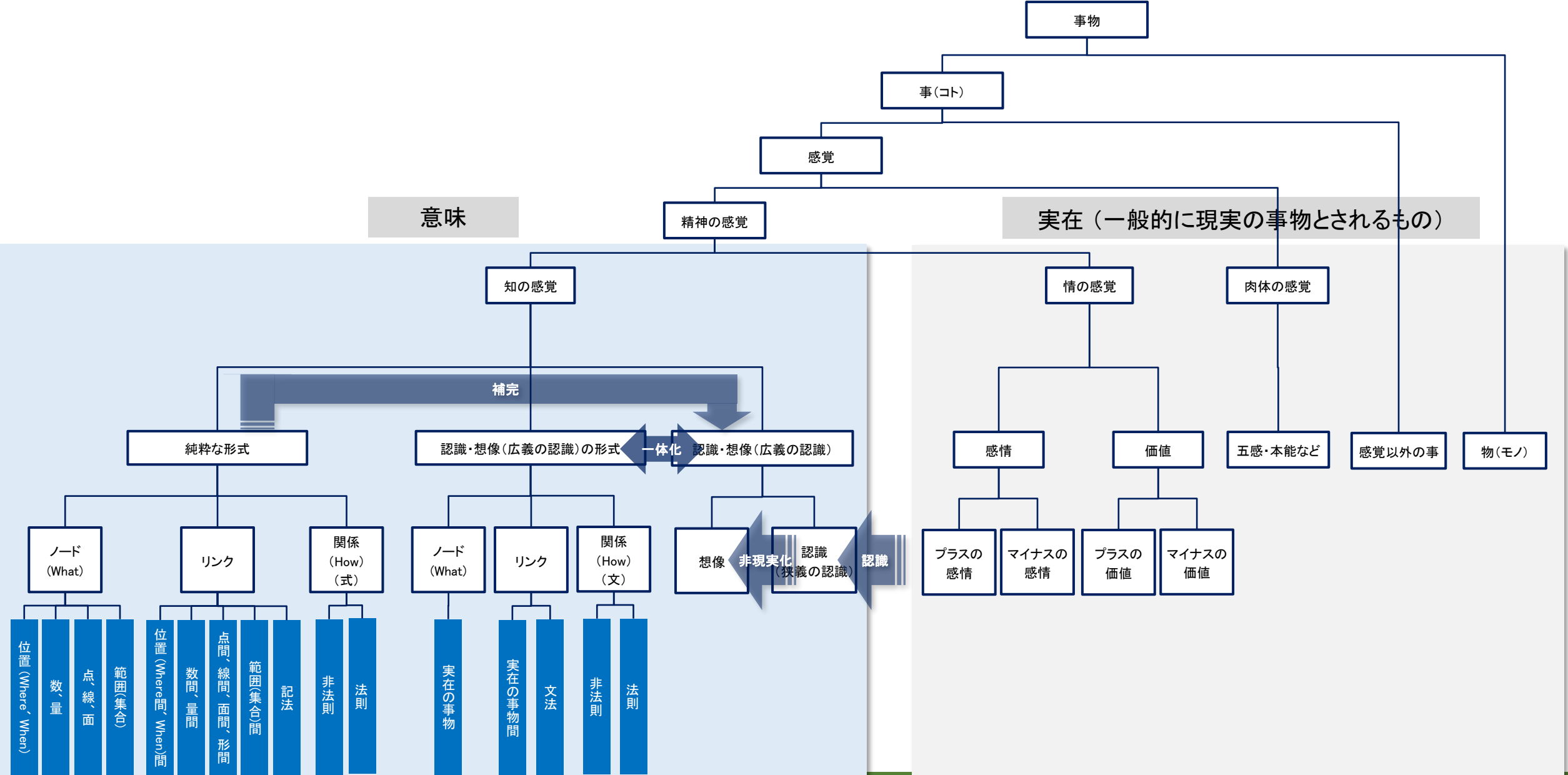


【正しさとは何か】

補足： 厳密には、認識は事(コト)である



【正しさとは何か】
補足： 事物の分類





アリストテレスの 10のカテゴリー

- ・「実体」 (例: 人間、馬)
- ・「量」 (例: 2ペーキウス、3ペーキウス)
- ・「質」 (例: 白い、文法的)
- ・「関係」 (例: 二倍、半分、より大きい)
- ・「場所」 (例: リュケイオン、市場)
- ・「時」 (例: 昨日、昨年)
- ・「体位」 (例: 横たわっている、坐っている)
- ・「所持」 (例: 靴を履いている、武装している)
- ・「能動」 (例: 切る、焼く)
- ・「受動」 (例: 切られる、焼かれる)

※ Wikipedia

アリストテレスが言う最高類概念

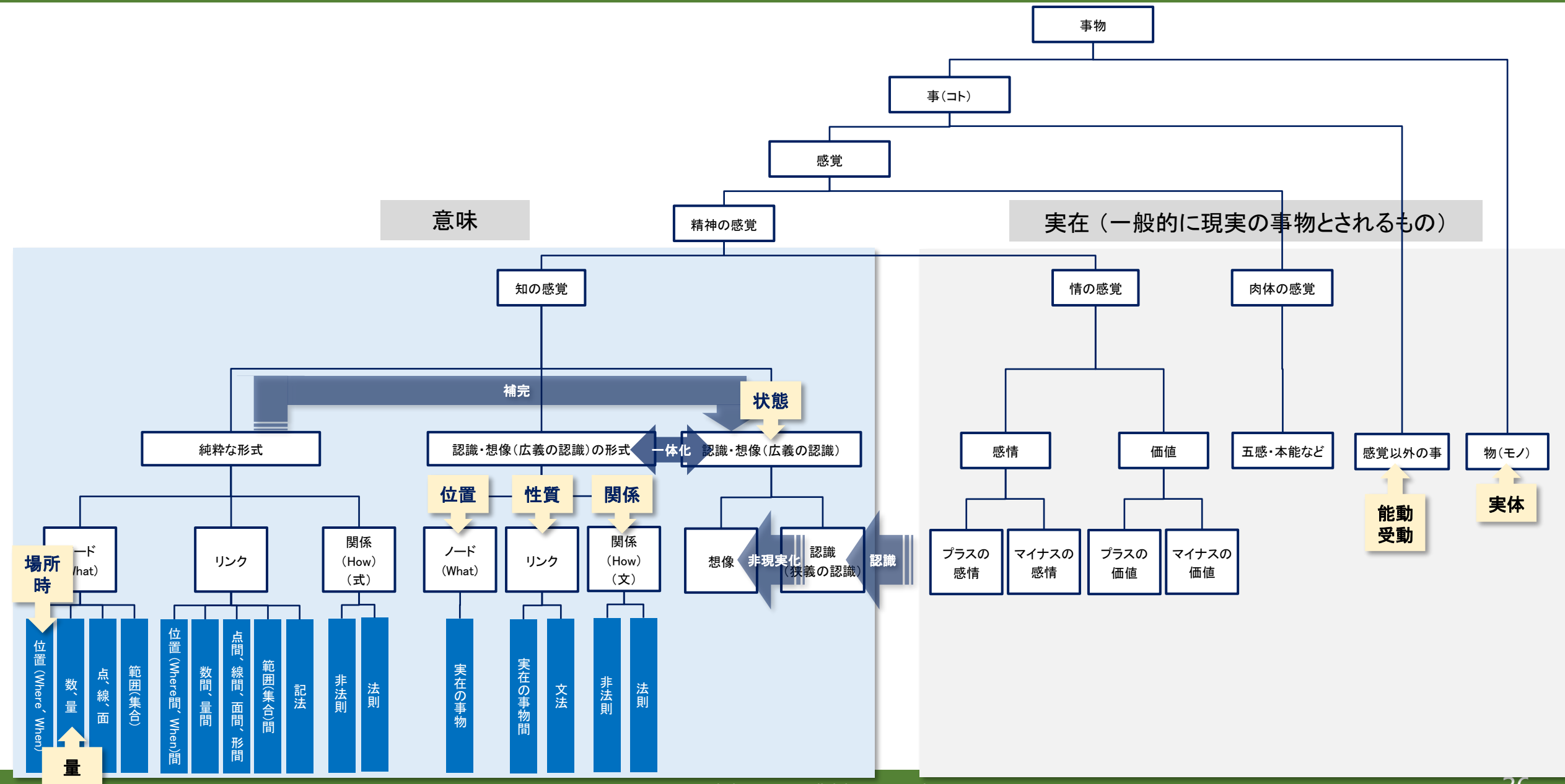
原理的なものから導き出された厳密なものというよりは、
経験的に文法を手掛りとして数え上げたもの

実体、量、性質、関係、場所、
時、位置、状態、能動、受動

※ ブリタニカ国際大百科事典

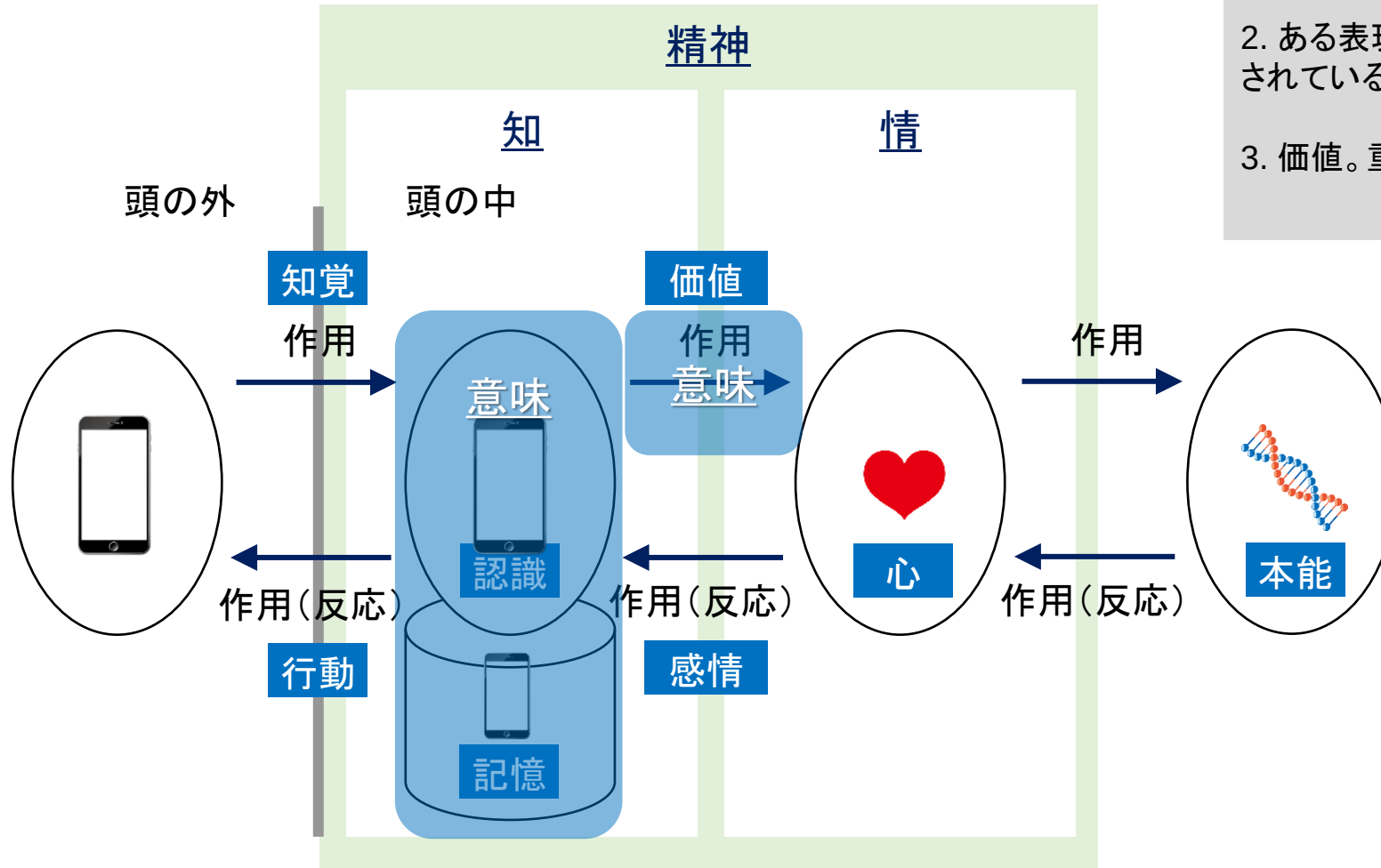
【正しさとは何か】

補足： 横田の事物の分類 vs アリストテレスの10のカテゴリー



【正しさとは何か】

補足： 意味とは、知の感覚、ないしは、プラスの価値である



【意味】

1. 言葉が示す内容。また、言葉がある物事を示すこと。
2. ある表現・行為によって示され、あるいはそこに含み隠されている内容。また、表現・行為がある内容を示すこと。
3. 価値。重要性。

デジタル大辞泉

【正しさとは何か】

補足： 言葉とは、知の感覚のタグとなる認識である

言葉となる認識の対象(例)

- ・文字
- ・記号
- ・音
- ・絵
- ・動作

